

# 1 『ツンデレおじさま吸血鬼のオトし方』

2 ※実際の収録内容と一部異なる場合がございます

3

4

## 5 【登場人物】

### 6 ◆ミカエル

7 N歳（見た目は四十代半ばから後半くらい）180センチ88キロ。

8 誇り高き高等吸血鬼千年くらい生きている。

9 頑固で厄介な性格。懐古主義。

10 ヒロインが幼い頃、はぐれ吸血鬼に襲われていた彼女を助けたことがある。

11  
12 近頃の雑多な世の中にやや嫌気が差して、人里離れた屋敷に引きこもつ  
13 て暮らしている。登録した方が楽だし静かなので役所からちゃんと登録  
14 番号もらってる。

15 このまま独りで朽ちるのもまた一興……などと思っていたところ、役人  
16 であるヒロインが押しかけてくる。

17 ヒロインの血はめちやくちや美味しい好み。

18 ヒロインのことは「君」と呼ぶ。ヒロインからは『ミカさん』と呼ばれ  
19 ているが、ちゃんとミカエルと呼んでほしい。

20 好きなものは上質なワインと葉巻とオムライス。嫌いなものは犬と美し  
21 くないもの。『美しさ』とは容姿の事ではなく全般に及ぶ。

22

### 23 ◆ヒロイン

24 役所の『吸血鬼対策本部』に務める公務員。このたび、吸血鬼と人間と  
25 の交流強化に伴い、ミカエルの担当になった。

26 幼い頃、悪い吸血鬼に襲われていたところを助けてもらって以来、ずつ  
27 とミカエルに恋心を抱いている。

28 特技は料理。人の話をあまり聞かない猪突猛進型。

29

### 30 ◆岡部

31 吸血鬼マニアで、常に高級ビデオカメラ片手に吸血鬼のことを追ってい  
32 る。『畏怖』な存在が好き。動画配信サイトで吸血鬼の配信をしてい  
33 る。

34 ミカエルとヒロインが一緒にいるところを見て、ヒロインを利用してミ  
35 カエルをおびき寄せようと考える。

36 吸血鬼のこととなるとテンションが上がリ、盗撮や住居不法侵入などな  
37 んでもする迷惑な存在。情報収集もかねて、カフェでアルバイトをして  
38 いる。ひたすらテンション高くウザい。

1 ●トラック① 心の窓から失礼します  
2 人里離れた屋敷で隠遁生活を送るミカの元を訪ねるヒロイン。  
3 吸血鬼と人間の共存のため、吸血鬼が社会になじめるよう手助け  
4 をすると言う。全力で拒否してヒロインを追い出すミカ。  
5  
6  
7  
8

時間：夜

場所：山奥の屋敷

【ミカエルの屋敷を訪ね、ドアをノックするヒロイン】

SE：重厚なノック音

SE：重たい木戸がわずかに開く

【1】

ミカ「【めんどくさそうに】何者だ。

ここは誇り高き吸血鬼ミカエルの屋敷。

命惜しくば早々に立ち去れ、人間」

【ヒロイン「吸血鬼対策本部の者です」】

ミカ「吸血鬼対策本部……？

【鼻で笑う】くだらん。

帰って上司に報告しろ。

吸血鬼ミカエルは人間風情に

管理されるつもりはないとな」

SE：ドア閉まる

SE：鍵締まる

SE：重厚なノック連打

ミカ「【ドア越し】しつこいぞ！

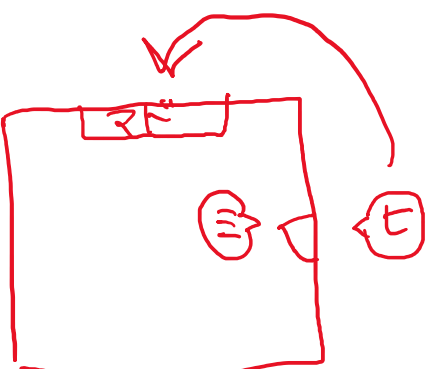
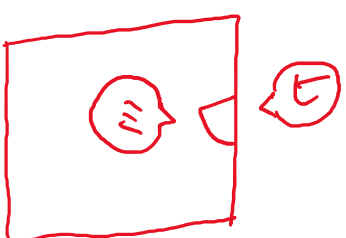
私が紳士的に対応しているうちに消えろ小娘！」

【ヒロイン、窓からの侵入を試みることを決意】

SE：砂利を歩くヒールの足音

SE：窓ガラス

【ヒロイン「窓から失礼します」】



1  
2  
3 【9】 ミカ「は！？ 窓から！？ おい待て入ってくるな！  
4 玄関を開けないからといって、  
5 窓から侵入する役人があるか！  
6 吸血鬼だって招かれるまでは人の家には入らんど！」

7  
8 SE:飛び込む衣擦れ

9  
10 【ヒロイン】「お話したいことがあるんですけども」

11  
12 ミカ「い、いうにことかいて  
13 何が、お話したいことがあるんです」だ！  
14 この状況で私が、よろしいではお茶でもいかがかな」と  
15 言うと思うか？  
16 上司への苦情は勘弁してやる。  
17 つまみ出されたくなければさっさと出て行け！  
18 玄関からー！」

19  
20 【ヒロイン】「こちらの手紙についてなのですが」

21  
22 SE:手紙ガサガサ

23  
24 ミカ「嘘だろう本気でそのまま話し始めるつもりか？  
25 一体どうなってるんだ君の精神構造は！  
26 今まで来た職員はもう少し  
27 私の意志を尊重する人の心と  
28 社会人としての常識があったぞ!？」

29  
30 【ヒロイン】「だから何もできずに追い返されてきたのかなと」

31  
32 ミカ「ははあ……なるほどそういうわけか。  
33 今まで追い返してきたあまたの職員に変わり、  
34 君がこの私に手綱をつけて御そうというわけか」

35  
36 【ヒロイン】「手綱だなんてそんな」と照れる

37  
38  
39  
40 【9】



1 ミカ「おい小娘。なぜ今ので頬を赤らめた。  
2 妙な妄想のダシに私を使うんじゃない！  
3 そもそもこんな夜更けに！ こんな人里離れた！  
4 政府支給の輸血パックで飢えをしのいでいる  
5 吸血鬼の屋敷に！  
6 甘い血の臭いを振りまく乙女が足を踏み入れて  
7 いいわけがないだろう！」

8  
9 ミカ「深く深く深呼吸】……はぁ~~~~~……！  
10 いや、確かに私にも責任の一端はあるな。  
11 いいだろう。話したいことがあれば勝手に話すといい。  
12 仕事を終わらせれば君も帰れるんだらう？」

13  
14 【ヒロイン「じゃあお茶でも」】

15  
16 ミカ「お茶は出さん。  
17 話たければそのままそこで、立ったまま、  
18 手短に終わらせてくれたまえ」

19  
20 【ヒロイン、自分が人間と人外の交流強化政策のミカエル担当に  
21 なったことを伝える】

22  
23 ミカ「ふむ……」

24  
25 SE:衣擦れ

26  
27 ミカ「なるほど……」

28  
29 SE:衣擦れ

30  
31 ミカ「【鼻で笑う】」

32  
33 SE:衣擦れ



1 ミカ「話はそれだけか？」

2 思った通り……いや思った以上に  
3 聴く価値のない話だったな。

4 吸血鬼と人間の交流強化だと？

5 私に人間どもと一緒にチェスや

6 ポーカーでもしろと？」

7  
8 【ヒロイン「いえ、ビンゴゲームとか、しりとりとかです」】

9  
10 ミカ「ビ、ビンゴ?!? しりとり……?!?

11 地域の孤立したおじいさんじゃないんだぞ私は！」

12  
13 ミカ「いいかね、お嬢さん。

14 私には嫌いなものが二つある。

15 ひとつは犬、そしてもう一つは今の醜悪な世の中だ。

16 私は静寂と孤独を愛し、友も故郷もすべて捨て去り、  
17 自らの意志でここにいる。

18 頼むから私のことは放っておいて、

19 静かに暮らさせてくれ」

20  
21 【ヒロイン、従わないと監視対象になることを告げる】

22  
23 ミカ「監視？ いいとも、好きなだけするがいい。

24 人里に降りてビンゴゲームを遊ぶよりいくらもマシだ。

25 庭の植え込みにでも、木の上にも、

26 好きなだけ潜んで私を監視してくれと、

27 上司に伝えてくれたまえ。

28 だが、静かに頼むよお嬢さん。

29 騒々しいのは好かんのでな」

30  
31 ミカ「さあ、わかったら今すぐ帰れ。もう二度と

32 来るんじゃない」

33

34

35

36

37

38

39

1 ●トラック② 心づくしの手料理をどうぞ  
2 めげないヒロインは再びミカの家に戻り、オムライスを振る  
3 舞う。再びたたき出そうとするミカだが、ケチャップに処女の生  
4 き血が入っており、その刺激でクラクラしてしまう。

6 場所 ミカの屋敷（ダイニングキッチン）

7 時間 夜

9 SE：食器カチャカチャ

10 SE：遠くから走ってくる足音

11 SE：扉開く

13 【勢いよくドアを開けて部屋に飛び込んでくるミカエル】

15 【13】

16 ミカ「なぜまた君が！」

17 なぜ私の屋敷にいるんだ！」

19 【ヒロイン「合鍵で入らせてもらいました」】

21 SE：ヒロインが振り向く衣擦れ

23 【6】

24 ミカ「合鍵だと！？ いつのまにそんなものを……！！

25 だいたい、キッチンで何をしてるんだ君は。

26 監視なら血の不味そうな中年に

27 庭の植え込みでやらせたまえ」

29 SE：ヒロインの足音

30 SE：テーブルに皿を置く音

32 【7】

33 ミカ「なんだそれは」

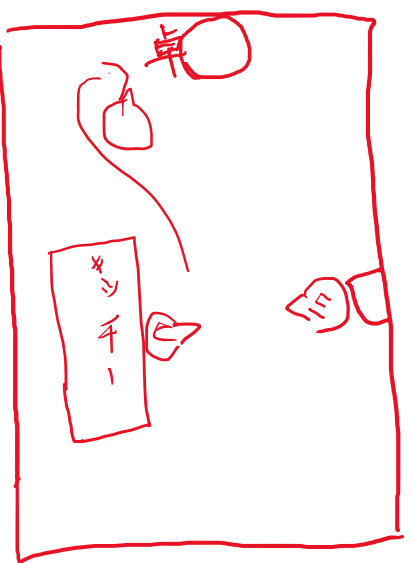
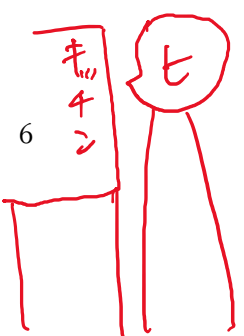
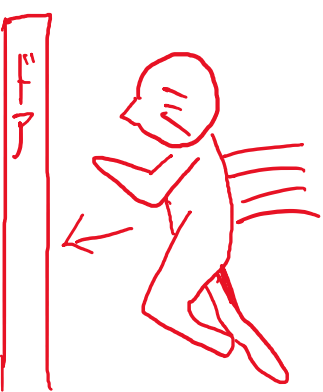
35 【ヒロイン、テーブルに皿を運び、

36 「オムライス作りました」と言う】

38 ミカ「オムライス？

39 なるほど……少しは私の好みを調べてあるようだな。

40 しかし私は味にうるさいぞ」



1 【7】  
2 ミカ「スンと鼻を鳴らす」しかしこの芳醇な香りは……。  
3 ケチャップに血を混ぜたのか？  
4 なんとも浅はかなことだな」

5 【ヒロインミカを見て「いりませんか？」】

6 【9】

7 ミカ「ま、待て！ 食わんとは言っていない。  
8 まあ……一口くらいなら食べてやらんこともないが」

9 【ミカ、ダイニングテーブルに歩み寄り、着席する】

10 SE：足音

11 SE：椅子に座る

12 SE：スプーンカチャリ

13 【ミカ、スプーンでオムライスを一食食べる】

14 【1 3を見ながらやや下から】

15 ミカ「ハムッ、むぐむぐ……ごくん。」

16 ああ、これは……美味しいな。

17 絶妙にとろける卵と絡み合った、バターの香りゆたかな  
18 チキンライス。

19 それにこのケチャップに混ぜた血の新鮮な  
20 こととといったら、まるで搾りたての  
21 処女の生き血じゃ——【ふと血の出所に気づく】

22 【1 ヒロインを見て】

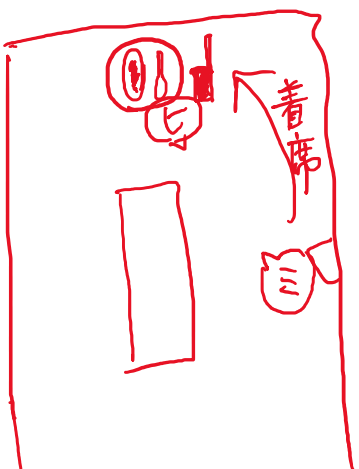
23 ミカ「お嬢さん。まさかと思うが、自分の血をケチャップに  
24 混ぜたりはしていません？」

25 【ヒロイン「混ぜました」】

26 ミカ「【怒】吸血鬼に食わせるなそんなものを！  
27 どうりで血が強く香りすぎると思ったら！

28 君は吸血鬼について何も勉強していないのか！？」

29 SE：ナチスが



1 【ミカ、ヒロインの手をつかんで玄関まで引っ張っていく】

2

3 【1】

4 ミカ「いい！ 私が正気でいるうちにここから出ていけ！」

5

6 SE:ヒロインの手首つかむ

7 SE:二人分の足音

8 SE:ドア開ける

9

10 【1 背を向けながら】

11 ミカ「いいかね！ 吸血鬼にとって処女の生き血は

12 この世で最も尊ぶべきものだ。

13 食欲だけではなく、あらゆる欲望を満たす

14 至高の一滴だ。

15 人間でいえば麻薬に等しい。

16 自分の血を飲ませるなど、あまりに軽率だと

17 想像がつくだろう？

18 相手が私じゃなかったら、君の首に食らいついて

19 全身の血を吸い尽くしていても

20 おかしくなかったくらいだ！」

21

22 【ヒロイン「別に構わない」】

23

24 【1 ヒロインのほう振り向きながら】

25 ミカ「かまわない！？ かまわないだ！？」

26

27 【ミカ、激昂してヒロインを壁に叩きつける】

28

29 SE:壁ドン

30

31 【1 至近距离】

32 ミカ「自殺願望でもあるのか？

33 最後の一滴まで血を吸いつくされ、

34 干からびたミイラのようになって死にたいか？

35 ならばうなじを晒して人気のない夜道を歩けばいい。

36 はぐれ吸血鬼が喜んで君を食い殺しに行くだろう」

37

38 【ヒロイン、くすくす笑う】

39

40 【1 少し下がって】





1 ミカ「……何を笑っている。  
2 何がおかしい」

3  
4 【ヒロイン「そんな風に、はぐれ吸血鬼に食べられそうになつて  
5 いた時に助けてくれたのがあなたです」】

6  
7 ミカ「助けた……？ 私が？ 君を？  
8 一体何の話かね。私はここ数年、  
9 屋敷から出てもないのだがね」

10  
11 【ヒロイン、二十年前の事件のことを口にする】

12  
13 ミカ「二十年前!？」

14 ああ、それなら……確かに子供を一人助けた  
15 覚えがあるが……。

16 まさか二十年前に私に救われたからという理由で、  
17 吸血鬼対策本部に入り、私の担当になったのか？」

18  
19 【ヒロイン「はい」】

20  
21 ミカ「信じがたい執念だな。

22 ヴアンパイアハンターでももう少し諦めが早いぞ。  
23 あれは幼い少女を襲う吸血鬼の醜悪さに  
24 耐えられなかっただけで、

25 人を助けようと思っただけではない。  
26 よって、君が恩を感じる必要もない。  
27 ましてや生き血を差し出そうとする必要など……」

28  
29 【ヒロイン、キラキラした目でミカを見つめる】

30  
31 ミカ「よせ。頼むからその純真な目で私を見ないでくれ。  
32 吸血鬼対策本部の職員にかみついたとなれば、  
33 私の平穩は完全に失われる。  
34 当然、職員なら知っているだろうな？」

35  
36 SE:領く衣擦れ

37  
38 ミカ「結構。では、お帰りの時間だお嬢さん」

39  
40 SE:ドアを開ける

1  
2 ミカ「君が生き血など飲ませたせいで  
3 私は今から卑しい怪物のように吸血。パックを  
4 飲み漁るはめになるのだからね」  
5

6 SE:ヒロインの足音、フロアから砂利へ

7 【5】

8 ミカ「それでもこの飢えと渴きは癒えはしない。  
9 処女の生き血の後ではな」  
10

11 【ヒロイン振り向く】  
12

13 【1】

14 ミカ「残酷なことをしたと悔いてくれ。  
15 そして二度と、誰にも、  
16 同じようなことはしないと誓ってくれるね、お嬢さん」  
17

18 【ヒロイン、しぶしぶ頷く】  
19

20 SE:頷く衣擦れ  
21

22 ミカ「いい子だ。  
23 では、さようならお嬢さん。  
24 永遠に」  
25

26 SE:ドアを閉める  
27

28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

1 ●トラック③ 首からお召し上がりください  
2 翌日、キッチンには再びヒロインがおり、まったくこりていない  
3 様子。しかしヒロインが本気でミカエルに心酔していることを知  
4 り、一口味見のつもりがオーラルセックスに発展する。

5 時間：夜

6 場所：ミカの屋敷（キッチン）

7 SE：グラスカチャカチャ

8 SE：グラスに液体を注ぐ

9 SE：遠くから近づいてくる足音

10 SE：扉開く

11 【ミカがドアを開けると、アイランドキッチンを挟んだ向かい側  
12 でヒロインがグラスに何か注ごうとしている】

13 【ヒロイン「おはようございます」】

14 【9 2 m程度】

15 ミカ「つはは……これはデジャヴユか？  
16 出来損ないの夢魔が見せるたちの悪い悪夢か？  
17 昨夜永遠の別れを告げたはずの人間が、  
18 再び我が家のキッチンに現れた。  
19 どうか、神よ——信じちゃいけないが——いるなら  
20 私をこの悪夢から目覚めさせてくれ」

21 【ヒロイン「残念ながら現実です」】

22 ミカ「君に言われなくとも

23 現実なのはわかっている！

24 嫌味だ、皮肉だ、あてこすりだ！

25 というか君、なんだねそのグラスのトマトジュースは。

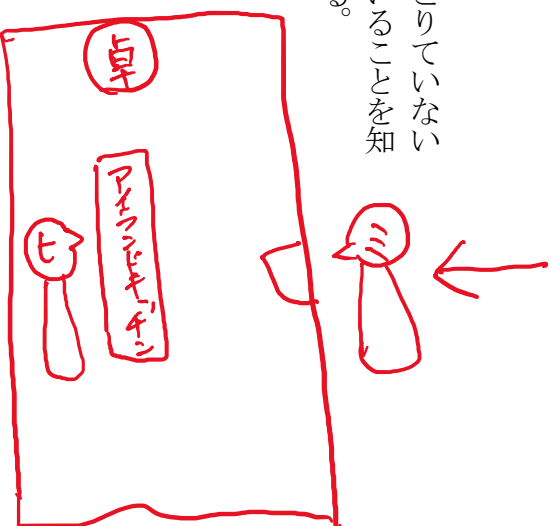
26 また血の匂いがするぞ。

27 二度とやるなど言っただは？」

28 【ヒロイン「事前に申告すればよいかなと」】

29 ミカ「事前に申告しようがしまいが関係ないわ！

30 吸血鬼に自分の血を与えるなど言っているんだ！」



1 【9 2 m程度】

2 ミカ「ふ〜…（冷静になり）君に言っても話にならない。  
3 お嬢さん、今すぐ上司に電話をかけなさい。  
4 そして私によこすんだ。  
5 担当をかえるように直々にクレームをつけてやる」

6 【ヒロイン「無駄だと思いますけど」】

7  
8  
9 ミカ「無駄なものか。  
10 私が暴れ狂うはぐれ吸血鬼になったら、  
11 困るのは君たち人間のほうだぞ。  
12 乙女を中年オヤジに換えろという権利くらいはある」

13  
14 SE: ヒポポ

15 SE: 呼び出し音

16  
17 【ミカ、ヒロインに歩み寄り、アイランドキッチン越しに手を伸  
18 ばす】  
19

20 SE: ミカの足音

21  
22 【9 アイランドキッチンを挟んで】

23 ミカ「いい子だ。ほら、貸して」

24  
25 【ここから通話。電話相手の声は収録しません】

26  
27 ミカ「失礼、君の部下から電話をお借りした。」

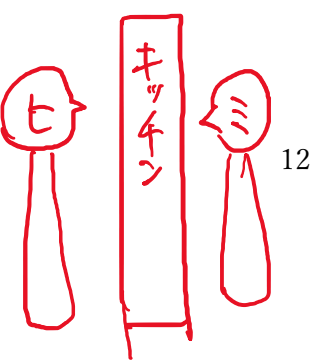
28 私は管理番号S014でそちらに登録されている  
29 ミカエルだが、担当を変えてはもらえないかね」  
30

31 【上司「無理ですね」】

32  
33 ミカ「は？ 無理……？」

34 いや、そんなはずがないだろう。  
35 君、資料を確認してみたまえ。  
36 私を誰だと思っているんだ？  
37 軽々しく扱って逆鱗に触れでもしたら、  
38 大変なことに」  
39

40 SE: 通話切れる



1 ミカ「おいぶぎけるな高等吸血鬼との話の途中で  
2 通話を切るとは何事だ！  
3 まったくこの国の連中ときたらどいつもこいつも  
4 吸血鬼に対する畏怖というものがまるで感じられない！  
5 ああ、スマホをありがとう」

7 SE：衣擦れ

9 ミカ「なあ君、悪いことは言わない。  
10 こんな上司の元で働くのは即刻やめるべきだ。  
11 私をもっといい就職先を世話してやる」

13 【ヒロイン「あなたのお嫁さんとか？」】

15 ミカ「オヨメサン……？ 待て、辞書を引く」

17 SE：懐から本を出す

18 SE：紙をめくる

20 ミカ「ははあ、ワイフの古風な言い回しか。  
21 つまり私の妻になりたいと？」

23 SE：本を閉じる

24 SE：懐にしまし

26 ミカ「まあ……君がそう望む気持ちは理解できなくもない。  
27 むしろよくわかる。痛いほどに。  
28 しかし私は独身主義でな。  
29 確かに昨晩味わった君の血の甘美さは忘れがたく、  
30 今なお私を苦しめているが……」

32 SE：衣擦れ

34 【ヒロイン「どうぞ」と、首筋を差し出す】

36 ミカ「馬鹿者！

37 乙女が吸血鬼に軽々しく首筋を晒すんじゃない！  
38 ハラスメントだぞそれは！」

40 【ヒロイン「飲みたくないんですか？」】

1 【9】  
2 ミカ「飲みたくないわけがないだろうが！  
3 だが、飲むわけにはいかんだろうが！  
4 君は吸血鬼対策本部の職員で、  
5 それを噛めば追及は免れない。  
6 私は登録番号を失い拘束される。  
7 逃げればヴァンパイアハンターに追われ、  
8 私の求める静寂と安寧は消え果てる。  
9 それだというのに君は——」

10 【ヒロイン「でも、仕事辞めますし」】

11 ミカ「……何？ 仕事をやめる？  
12 いや……確かに私が言ったことだが……  
13 相当の努力をして、今の地位を得たんだろう？  
14 それを、そんなにあっさり手放すのか？  
15 私が辞めろと言ったから？」

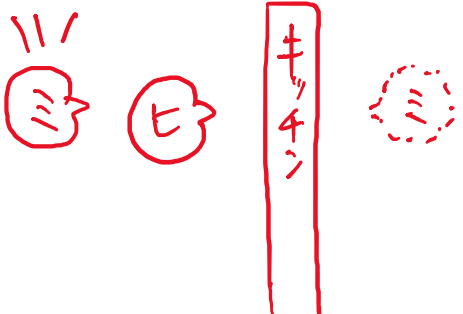
16 【ヒロイン「仕事はあなたに会うための手段でしかありません」】

17 ミカ「それじゃあ君は本当に、私のためなら  
18 すべてを捨てられるというのか？  
19 子供のころ、私に救われたという理由だけで？」

20 ミカ「【嬉しそうに】想像を絶する愚かさだな。  
21 あまりにも幼稚過ぎる。  
22 初めて見たものを親と思う小鳥か何かか？  
23 必死に努力して吸血鬼対策本部に入った目的が、  
24 よもや私の食事になるためとはな」

25 【9】  
26 ミカ「そこまで望むのなら、いいだろう」

27 【ミカ、一瞬でヒロインの背後に移動する】



1 【6 背後から】

2 ミカ「望むとおりに噛んで、吸ってやる。

3 【うなじのにおいをかいで】ああ……いい香りだ。

4 君の薄い皮膚の下を走る血管からたちのぼる、

5 私を誘惑してやまない甘い香り」

6  
7 ミカ「私に会うために吸血鬼対策本部に入ったように、

8 私に食われるために、血の味が良くなるように

9 整えてきたのだね。

10 素晴らしい心がけだ。

11 では、さっそく味わわせてもらおうか【かぶり】」

12  
13 【ヒロインの首筋から血をすすする。舐めたりしゃぶったり。二十  
14 秒ほどお願い致します】

15  
16 ミカ【ヒロインの首筋からやや強引に口を離し】

17 ふはっ！ はあ、はあ……」

18  
19 【ヒロイン「ミカさん？」】

20  
21 ミカ「くそっ……。これは、想像以上に……！」

22 【興奮を堪える】はあ、はあ……。

23 ふう、ふうー……っ！

24 すまない、私ともあるうものが、少々油断した。

25 一口噛む程度で耐えられると思っていたが、

26 今にも理性が飛びそうだ……！」

27  
28 ミカ【苦しげに】本部から仕事できているなら、

29 銀のナイフくらいは持つてきているだろう？

30 それで私を刺し、今すぐここから逃げるんだ。

31 君を食い殺したくはない……！」

32  
33 【ヒロイン、次のセリフの途中で体をひねってミカにキスをす  
34 る】

35  
36 **SE:大きめの衣擦れ**

37  
38 【6→1】

39 ミカ「はやくするん……んう!? 【言いながらヒロインに

40 キスされて驚きつつもキスに応じる】」

1 【ディープキス二十秒程度お願いします】

2

3 【1】

4 ミカ「少し落ち着いて」ナイフの代わりに  
5 情熱的なキスとは……トスカのキスとは真逆だな。  
6 体液を与えれば、吸血衝動が和らぐことを  
7 知っていたのか？」

8

9 【ヒロイン「プロですから」】

10

11 ミカ「プロか……そうか。」

12

13 では、こうなることも想定通りだな。

14

15 このまま、もう少し」

16 【ついでにむようなキス↓徐々にディープキスへ。三十秒ほどお願  
17 いします】

18 ミカ「じゅるっ、はぁ……」

19

20 おい。なぜ私の服を脱がせる？」

21 SE：シャツ脱がせる衣擦れ

22

23 【ヒロイン「ムラムラしてきました」】

24

25 ミカ「欲情しているのか？」

26

27 理性を失いかけている高等吸血鬼を相手に。

28

29 恐ろしくはないのか？」

30

31 次の瞬間にも、私は君の頸動脈を食い破り、

32

33 処女の血に耽溺する怪物に張り果てるかもしれない。

34

35 いや……それさえも、君はかまわないというのだろうか」

36

37 【3 囁くように】

38

39 ミカ「報いてやろう。その哀れなまでの献身にな。

40

その体のほてりを、私が慰めてやる」

【ミカ、ヒロインをアイランドキッチンに押し倒し、押しかかる】

SE：押し倒す衣擦れ



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

【1】

ミカ「顔が赤いな。」

聞こえるぞ。君の脈打つ心臓と、

血管を流れる血液の音が。

今更恥じらいを取り戻したのか？

私がこうすることは想定外？

随分可愛い顔をするじゃないか」

【1 少し身を引いて】

ミカ「この美しくない服は——」

【ミカ、爪1本でヒロインの服を切り裂く】

SE：鋭い刃物で服を切る

ミカ「もう必要ないな？ 仕事をやめて私の元に来るのなら、

私がふさわしい服を与えなければ」

SE：服の切れ端が落ちる

ミカ「綺麗な身体だ。

誰にもさらされたことのない、私だけの乙女の裸体。

美しいな。この世の何よりも、この私よりも」

【ミカ、ふたたびヒロインにのしかかる】

SE：衣擦れ

【3 耳元】

ミカ「震えているな。心臓が早鐘のようだ。

だが恐怖ではない。

男に触れられることへの不安と、

それを上回る大きな期待」

【3】

ミカ「何を期待している？

触れてもいけないのかたく立ち上がった乳首を、

私の舌で嘗め回され、強く噛んでほしいのか？

君の淫らさを罰するように。痛みを感じるほどに。

望むとおりにしてやろう」

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

【ねっとり右の胸舐め。三十秒ほどお願い致します】

【1 やや下から】

ミカ「【舐めながら】はは、面白くらいにさえずるじゃないか。そんなに気持ちいいのか。こっちも忘れずに可愛がってやらないとな」

【ねっとり左の胸舐め。二十秒ほどお願い致します】

【1 顔を覗き込むように】

ミカ「はあ……」

くつくつ。すつかりとろけた顔になって。

慰めるどころか、ますます興奮させてしまったようだ。見なくとも、においでわかる。

あふれた君の愛液が、

今にも太ももを伝いそうだ」

【ヒロイン「違います」】

ミカ「何が違う？ この私に嘘をつくのか。

ああ、いや。証拠もなく疑うのは無粋というもの。

ほら、キッチンに尻を乗せて、

両足を大きく開いて私に見せて見なさい」

【ヒロイン、躊躇する】

【1 少し下がって】

ミカ「私の命令が聞けないのか？

そうか、ならここまでとしよう。

嫌がる婦人に無理強いをする趣味はない」

【ヒロイン「嫌がってない」】

【1】

ミカ「嫌ではないなら、できるだろう。

ではもう一度だけ命じてやる。

そして君は喜びをもってそれに従う。

キッチンに座って、両足を大きく開きなさい」

1 【ヒロイン、命じられたとおりにする】

2  
3 SE:アイランドキッチンに座る

4 SE:足を開く

5  
6 【1】

7 ミカ「ほう？ ほう、ほう、ほう。

8 あふれて、濡れて、滴って……

9 いまにもキッチンを汚しそうじゃないか。

10 やはり君は、私に嘘をついたのだな。

11 だが私は寛容だ。

12 チャンスをやろう。

13 何をされても、私がヨシと言うまで果てずにいられたら、

14 嘘をついたことを許してやる」

15  
16 【ヒロイン、不安げ】

17  
18 ミカ「何も不安に思うことはない。

19 胸を舐められた程度では濡れないと、

20 強く言い張った君ならできるだろう。

21 私が指で君の中をかき回しながら、

22 君の一番敏感な部分を蹂躪したところだな」

23  
24 【ヒロイン、思わず足を閉じようとするが、閉じられない】

25  
26 ミカ「はっはっはっは！

27 どうした？ 足が閉じられなくて不思議か？

28 君は高等吸血鬼の目を見て、その命令に従ったんだぞ。

29 私がいいというまで、動けるわけがないだろう。

30 研修で習わなかったのか？」

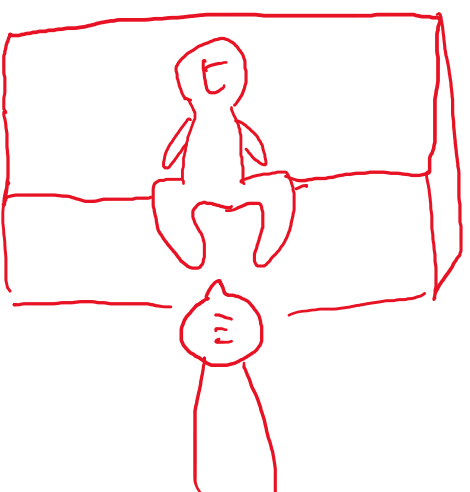
31  
32 ミカ「では、始めようか。

33 おっと……爪は短くしておこう。

34 傷つけては大変だ」

35  
36 SE:爪を短くする音

37  
38  
39  
40



1 【7 耳元で】

2 ミカ「目を閉じていると、  
3 何をされているかわからなくてこわいだろう。  
4 私が教えてやろう。  
5 まずはこちらして、物欲しげにうごめく君の入り口を。  
6 指の腹でほぐしてやる。  
7 ゆっくり、ゆっくりな……」

8 【ミカ、ヒロインの浅いところをねちねち舐る】

9 SE:水音ゆっくり

10  
11  
12  
13 ミカ「私が指を動かすたびに、とろとろとあふれて止まらない。  
14 もどかしいのか？  
15 腰が揺れて、もつと奥にと私を誘っている。  
16 いいだろう。望み通り、奥まで指をねじ込んでやる」

17 SE:指挿入

18  
19  
20 ミカ「はは、どうだ？  
21 処女と言うのに、二本も奥までのみ込んで。  
22 痛いかな？ 苦しい？  
23 そんな顔ではないなあ。  
24 こうして指を奥にとどめて、ゆるゆると動かしながら、  
25 気が狂うほど舐めてやろう」

26 SE:指動かす音ゆっくり

27  
28  
29 【クン二十秒ほどお願い致します】

30  
31 【1 下から】

32 ミカ「ン……ああ、いい味だ。  
33 快楽に狂った燃える乙女の体液は、  
34 血も、唾液も、愛液も、すべてが至上のワインに勝る」

35  
36 【クン三十秒ほどお願い致します】

37  
38 【ヒロイン、派手にいく】

39 SE:絶頂の衣擦れ。髪を振り乱したという解釈で

40

1 【1 下から】

2 ミカ「【合間に舐めつつ】んー？」

3 まさか、イったのか？

4 そんなはずがないなあ？ 私に許されるために、

5 君はまだまだ耐えられる。そうだろう？

6 むしろ、物足りないくらいだなあ？

7 ほら、指も激しく動かしてやる」

8 SE：指激しく動かす

9 【クンニ三十秒ほどお願い致します】

10 SE：潮吹き

11 SE：指のSEストップ

12 【クンニここまで】

13 ミカ「つと……！」

14 なんだ、泣いているのか？」

15 【1】

16 ミカ「よだれまで垂らして、だらしのない。

17 もうイけないか？ ん？

18 しかしほら、私が指を少し動かしただけで」

19 SE：絶頂の衣擦れ。髪を振り乱したという解釈で

20 【3 耳元】

21 ミカ「ほら、またいった。

22 ほら、ほら。これほどたやすく、これほど何度も

23 派手にイキ狂うということは、

24 私に許してほしくなどない、ということか？」

25 【ヒロイン、首を必死に左右に振る】

26 SE：否定の衣擦れ

27 ミカ「わ、わかったわかった！

28 わかったから、一度その涙と鼻水を吹きなさい。

29 ほら、もう足を閉じてもいいぞ。

30 少しいじめすぎてしまったな——つと！」

1 【ヒロイン、ミカに抱き着く】  
2

3 SB:抱き着く  
4

5 ミカ「妙な女だな、君は。  
6 大泣きするほど私に辱められ、  
7 それでも私に抱き着いて許しを請うのか。  
8 大丈夫。最初から怒ってなどいない。  
9 からかったただけだよ、お嬢さん。  
10 君があまりに私の話を聞かず、  
11 私の静寂を蹂躪し、  
12 私を私でなくさせるから」  
13

14 ミカ「今夜はもう遅い。部屋を用意するから、  
15 泊っていきなさい。  
16 これからのことは、少し落ち着いてから考えましょう。  
17 お互いにな」  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39

1 ●トラック④さよならなんて言わせません  
2 トラック3から数日、ミカからの電話などもすべてシカトして過  
3 ごしていたヒロイン。  
4 ついに怒ったミカが人里に降りてきてヒロインの前に姿を現す。

6 場所：市街地

7 時刻：夜

9 SE:しばし一人で歩く足音

10 SE:スマホの呼び出し音

12 【13】

13 ミカ「電話が鳴っているようだが……  
14 出ないのかね、お嬢さん」

16 【ヒロイン、驚いて振り向く】

18 SE:衣擦れ

20 【9】

21 ミカ「発信相手くらい確認してもいいんじゃないか？  
22 もしかすると、相手は人間に恨みを抱き、  
23 夜道で獲物を狙う悪い吸血鬼かもしれない」

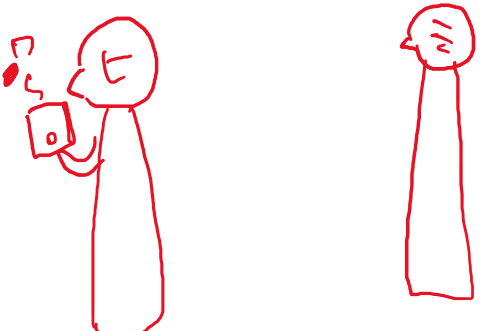
25 【ヒロイン「ミカさんの番号です」】

27 ミカ「イラっとして」私の番号だと知っていたのか？  
28 知っていないながら、この三日間一度も出なかったと？」

30 【ヒロイン「はっ！」】

32 ミカ「何を笑顔で元気よく返事してるんだ君は！  
33 私はあの晩、君に『落ち着いたら話をしよう』と  
34 伝えたはずだ。  
35 なのに私が棺から目を覚ますと君は屋敷におらず、  
36 電話をかけても応答しない。  
37 何かよからぬことに巻き込まれでもしたかと  
38 こうして様子を見に来てみれば、  
39 元気に夜道を歩いているとくる！」

40



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

【ヒロイン「でも」】

【9】

ミカ「よせ！ 言い訳を聞くつもりはない。  
恐ろしくなったのだろう？ 吸血鬼が。  
それか幻滅したか？ 思ったような存在ではなかったと。  
人間はいつもそうだ。いつもそれだ！  
もう十分だ。

【言いながら背を向ける】飽き飽きたよ」

【ヒロイン、背を向けたミカに全力で抱き着く】

SE:ヒロインの走る音

SE:背中に突進

【1 ヒロインに背を向けて

ミカ「うぐ!!」

【1 背中に張り付いているヒロインに首だけ振り向く】

ミカ「な、なんだ君は!？」

放せこの……放しなさい！ なんて力だ!？」

【ヒロイン「退職時のサービス規程があつたんです」】

ミカ「……なに？

サービス規程……?」

SE:衣擦れ

【ミカ、ヒロインに振り返る】

【1 一歩離れた距離】

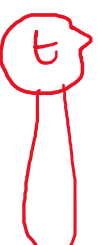
ミカ「まあ、話だけは聞こう。一応」

【ヒロイン「こちらの書類を(参照ください)】

SE:紙の音



24





1 **【1】**

2 ミカ「この書類は……離職に関する服務規程か。  
3 ええと、特に魅了の能力を持つ人外を担当した職員が、  
4 突如退職を申し出たとき、  
5 精神汚染の影響を考慮し一定期間対象から隔離する」  
6

7 ミカ「この期間中、対象からの接触が試みられた場合、  
8 これに応じた者には記憶消去処置をおこない、  
9 生涯人外に関する職務から排斥するものとする」  
10

11 ミカ「……いやちょっと待て。  
12 し、しししし、してしまったぞ今、私は。  
13 君に接触を」  
14

15 **【ヒロイン「困りましたね」】**

16  
17 ミカ「困っている場合か！  
18 よし、なかったことにしよう。」  
19

20 **【ヒロイン「盗聴監視されてますし」】**

21  
22 ミカ「盗聴!? 監視!？」  
23 そ、そうか……では仕方ない。  
24 これも運命と思って諦め、  
25 君をさらってしまおうとするか」  
26

27 **SE:アラームピーピー**

28  
29 ミカ「なんだ？ そのアラームは」  
30

31 **【ヒロイン「深夜0時です。ただいまを持って離職が完了しまし  
32 た」】**  
33

34 ミカ「深夜零時？ ああ、そうか日付が変わって……  
35 その瞬間に、君は退職ということか？」  
36

37 ミカ「ほっとして」そうか。……そうか、そうか。  
38 つまり君は、ついに無職になってしまったのだな。  
39 かわいそうに、食い扶持もなく、  
40 行く当てもなくなってしまうのだなあ」

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

【1】  
ミカ「【うやうやしく】では、お連れしようか。  
私の屋敷に」

1 ●トラック⑤ あなただけの乙女  
2 トラック4の続き。ミカに連れられて屋敷に戻ってきたヒロイン  
3 は、ミカに血とともに処女を捧げる。

4 場所…ミカの家

5 時刻…深夜

6 SE:ベッドに勢いよく倒れ込む

7  
8  
9  
10 【ヒロインをベッドに押し倒し、むさぼるようにキスするミカ】

11  
12 【唇にキス、二十秒程度お任せします】

13  
14 【1】

15 ミカ「【キスしながら】ほら、もっと舌を絡めて。

16 はあ……、甘い。この前よりもずっと……」

17  
18 【キス二十秒程度お願いします】

19  
20 ミカ「ああ、この上気した頬。

21 我々吸血鬼の凍った血とは違う。

22 赤く、熱い血潮が通っている証だ。

23 美しいな、美しい」

24  
25 【ヒロイン「処女じゃなくなったら血も美味しくなくなっちゃい  
26 ますね」】

27  
28 ミカ「ん？ ああ、そうだな。

29 君が処女を散らせば、その血に価値はなくなる」

30  
31 【3 耳元で】

32 ミカ「君が処女を捧げた私以外にはな【言い終わりで耳舐め】」

33  
34 【耳舐め30秒程度お願いします】

35  
36 ミカ「なんだ、太ももをすり合わせて。

37 もう中に欲しいのか？ この前のような、

38 脳が焼き切れて泣き叫ぶような快樂が欲しいのか。

39 いいだろう。ほら、っらん。まずは一本」

40



1 SE: ゆっくり指入れる水音  
2

3 【2 少し離れて】

4 ミカ「見えるか？ 君の一番弱くて、柔らかくて、  
5 無防備なところが、私の指を呑み込んでいくのが。  
6 きゆうきゆうと締め付けて、くわえ込んでいるのが」  
7

8 SE: 指抜き差し水音

9 SE: 衣擦れ

10 SE: ベッド小さく軋む

11  
12 ミカ「もう十分に濡れているな。  
13 もっと激しく動かしてほしいか？ こうやって」  
14

15 SE: 指抜き差し水音徐々に速度上げて

16  
17 ミカ「何が駄目だ、そんなにとろけた顔を見せておいて。  
18 それとも、指一本では物足りないか？  
19 だったら——そら、二本目をくれてやろう」  
20

21 SE: 指入れる水音

22 SE: ベッド軋む

23  
24 ミカ「ああ、良い声だ。よほど気持ちいいらしい。  
25 後から後から蜜が溢れだしてくる。  
26 こんなに私の手を汚して…悪い子だな」  
27

28 【ヒロイン、謝る】

29  
30 ミカ「なんだ、謝りながら感じているのか？  
31 こんなにきゆうきゆう締め付けて。  
32 甘い声を上げながら、腰をくねらせて……。  
33 今、自分がどんな顔をしているかわかるか？」  
34

35 【3 耳元で】

36 ミカ「淫らで、甘ったるい、男を誘う顔だ」  
37

38 SE: ベッド激しく軋む

39 SE: 衣擦れ

40

1 【ヒロイン達する】

2  
3 SE:指の出し入れストップ

4 SE:指抜く

5  
6 【1 顔を見ながら】

7 ミカ「おやおや、今のでいったのか。

8 腹の中をかき回されるのがよかったのか？

9 それとも——」

10  
11 SE:ベッド軋む

12  
13 【7 耳元で】

14 ミカ「耳が弱いのか？

15 こうして、息を吹きかけたらどうなる？

16 ふうー……」

17  
18 SE:ベッド軋む

19  
20 ミカ「ああ、素直な反応だ。

21 ご褒美に、耳の奥まで、たっぷり舌で犯してやろう」

22  
23 【耳舐め三十秒程度お願い致します】

24  
25 SE:ベッド軋む

26  
27 【7】

28 ミカ「ははっ、本当に弱いんだな。

29 耳を舐められるだけで果てるとは。

30 だが、この程度は人間でも与えられる快樂だ。

31 ここからは、吸血鬼の愛し方を教えてやろう」

32  
33 SE:ズボンのベルト外す

34 SE:ファスナーおろす

35  
36 【ヒロイン、ブツの大きさにビビる】

37  
38 ミカ「しい、しいー。そう怯えるな。

39 すぐに大ききなど気にならなくなる」

40  
【1】

1 ミカ「少し、首を傾けて。私にうなじを見せなさい。  
2 今からここに私の牙を突き立て、  
3 血を吸いながら君の処女を奪う。  
4 その生と死の狭間を漂うような快樂に、  
5 人間は抗えない」

6  
7 ミカ「死なせはしないさ。

8 私を信じてくれるだろう？

9 ゆっくり息をして。

10 そう、いい子だ。いくぞ——」

11  
12 【ミカ、ヒロインのうなじに噛みつくと同時に、奥まで挿入す  
13 る】

14  
15 SE：挿入音

16 SE：ベッドが激しく軋む

17  
18 【血を吸う音10秒程度お願いします】

19  
20 【うなじのあたりで】

21 ミカ「つくく……！ 吸血鬼に処女を奪われた気分はどうだ？

22 気も狂わんばかりの快樂だろう？

23 怖いか？ 怖いなあ。

24 力を抜いて、深く息をして。

25 【うなじにキスを散らしながら】

26 吸って、吐いて……吸って……吐いて……。

27 そう、上手だ……上手」

28  
29 ミカ「はあ……あついな。君の中は熱くて、やわらかくて、

30 私のはるか過去に失った人のぬくもりを思い出させる。

31 動くぞ。ゆっくりな」

32  
33 SE：ゆっくり出し入れ水音

34  
35  
36 【ピストンの息づかいのみ二十秒程度お願い致します】

37  
38 SE：水音ゆっくりめ

39 SE：ベッドゆっくり軋む音

40 【ヒロイン、キスをねだる】

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

【1】

ミカ「キス？」

ああ、もちろんだ。ほら、舌を伸ばせ。  
ちゅっ、ちゅ……」

【ディープキス三十秒程度お願いします】

SE: 徐々に早くなつていくピストン

ミカ「【キスしながら】はっ、はあっ……。奥を突くたび、  
中がうねって、きつく締め付けてきて……。  
まるで私の精を搾り取ろうとしているかのようだ。  
たまらないな……。【キス終わり】」

ミカ「うん？ またいきそうなのか？  
今度は共に果てよう。ほら、まだへばるな」

【フィニッシュに向かう激しい息づかい三十秒ほどください】

ミカ「はあ、はあ……。そろそろ……。っ。私も限界だ……。！  
うっ、くうう……。！【フィニッシュ】」

SE: ベッド激しく軋む

SE: 射精音

【ミカ、息整える呼吸数秒ください】

SE: ベッド軋む  
SE: 抜く音

【ミカ、ベッドに腰かけ、ヒロインのうなじの噛み痕を見て満足げ  
に微笑む】

【8 少し離れて】



1 ミカ「ふふ……うなじに私の噛み痕がくつきりと……。  
2 素晴らしい時間だったよ、ありがとう。  
3 少し貧血気味かな？  
4 血の気の多い君にはちようどいいかもしれないな」

5  
6 【ヒロイン、拗ねてミカに背を向ける】  
7

8 SE:背を向ける衣擦れ

9 SE:ベッドの軋み  
10

11 【13】

12 ミカ「怒るな怒るな。  
13 そうだな……無粋なことを言ったわびだ。  
14 一つ望みをかなえてやろう。  
15 何がいい？ ドレスか？ 宝石か？  
16 それに勝る価値のある美酒でもいい。  
17 なんでもいってみなさい」  
18

19 【ヒロイン「デートしたいです」と勢いよく跳ね起きる】  
20

21 SE:ベッド軋む

22 SE:強めの衣擦れ  
23

24 【1】

25 ミカ「で、デート？ 君はよもや、いまだに私を  
26 地域交流に連れ出そうなどと、  
27 そういう目論見をもっているわけでは……」  
28

29 SE:否定の衣擦れ  
30

31 【ヒロイン「違います」】  
32

33 ミカ「違うのならいいが。  
34 人混みは苦手だが、前言撤回は美しくない。  
35 叶えよう。  
36 行きたいところを選んでおきなさい」  
37  
38  
39



1 ●トラック⑥その気持ち、分かります  
2 デート中、化粧直しに立ったヒロイン。ひとりになったところを  
3 岡部に攫われ、ミカをおびき出すための餌にされてしまう。

4 場所 喫茶店  
5  
6 時間 夜

7  
8 SE:海の見えるテラス席のざわめき・音楽

9 SE:空のグラスの中で氷がカランと鳴る

10  
11 【ミカ、丸テーブルでヒロインの斜め前あたりに座っている】  
12

13 【8】

14 ミカ「わからんな。やはりわからん。

15 人間という連中は、何百年もの昔から  
16 何かにつけて寡だなんだと群れたがるものだが、  
17 わざわざ喧騒の中に身を置いて何が楽しい？」  
18

19 【ヒロイン「楽しくないですか？」】  
20

21 ミカ「私？ 楽しいものかね。

22 人が多ければ勘も鈍るし鼻も効かない。  
23 100歳やそこらの若造ならまだ知らず、  
24 私はもう500……いや千……？

25 私が物心ついたころには魔女狩りがあったような  
26 なかったような……  
27 ええい、とにかく私は屋敷で静かに過ごしていた方が  
28 性に合っているのだ」  
29

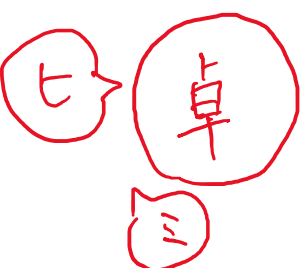
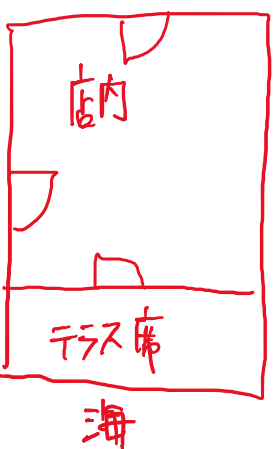
30 【ヒロイン、やや落ち込む】  
31

32 ミカ「別に、君と出かけるのがつまらないと  
33 言っているわけではないが……」  
34

35 【ヒロイン、化粧直しをしたいと言って席を立つ】  
36

37 SE:席を立つ

38  
39  
40



1 【5】  
2 ミカ「ああ、化粧直しか。」  
3 エスコートしようか？」  
4

5 SE: バシツと叩く

6 【1】

7 ミカ「いたっ……！」

8 いや、「冗談で言ったわけでは……」

9 SE: ヒロインの足音

10 SE: ドア開閉

11 SE: ざわめきフェードアウト

12 【ヒロイン、トイレを求めてテラス席から店内に入る】

13 【13 少し遠くから】

14 岡部「あ、お客様！ すみません、今店内は改装中……  
15 お化粧室ですよね？」

16 SE: 駆け寄っていく

17 【1 途中で背を向ける】

18 岡部「ちょっとわかりにくいので  
19 ご案内しますね。こちらの奥のほうです！」

20 SE: 二人分の足音

21 SE: ドア開ける

22 【1 ヒロインに背を向けて】

23 岡部「あのお、実はさつきから気になってたんですけど、  
24 お連れの方、吸血鬼ですよね？

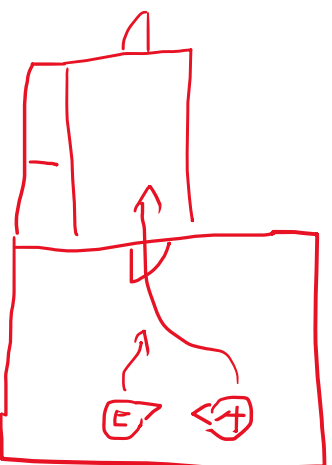
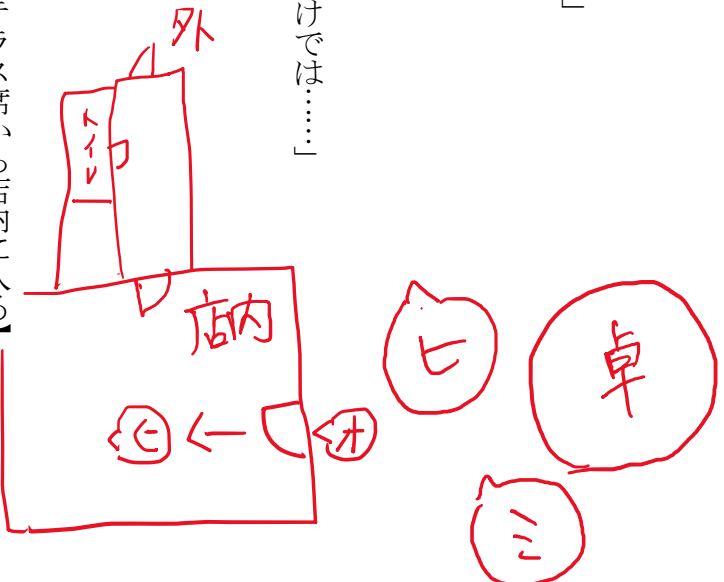
25 よかったら、おふたりの馴れ初めとかって

26 【1】でヒロインに振り向く】聞かせてもらえます？」

27 SE: 振り向く衣擦れ

28 SE: スプープッシュ

29 【ヒロイン、驚く】



1 【1】  
2 岡部「ビックリしました？  
3 即効性の催眠スプレーです。  
4 って言うてる間にもほら、もう立ってない」  
5

6 【ヒロイン、その場にしゃがみ込む】

7  
8 SE:ヒロインがしゃがみ込む

9  
10 【1 上から】  
11 岡部「すみません。手荒なことはしたくないんですけど、  
12 僕の崇高な目的のために、協力してもらいますね」  
13

14 SE:ヒロインが倒れる

15 SE:カフェの環境音フェードアウト

16  
17  
18  
19 間

20  
21 【場所 廃工場】

22  
23 SE:じゃかじゃん！

24  
25 【9 ヒロインに左横顔を見せる形で】  
26 岡部「——はい、というわけでですね。」

27 『ヴァンパイアハンター岡部の畏怖畏怖・吸血鬼  
28 チャンネル』お送りして参りたいと思います！  
29 今日のターゲットはなんと！

30 古の王の血筋とも噂されるあの高等吸血鬼ミカエルです！  
31 日本に移住してきたって情報はあるものの、  
32 誰も日本でその姿を見たことがない……  
33 そんな存在だったミカエルが、突然！  
34 夜をかける一陣の風のように我々の前に姿を現しました！  
35 しかもこの、  
36 【ヒロインを見て】うら若き乙女とともに！」  
37

38 【ヒロイン「ハハハハハハ」】  
39  
40



【9 再びカメラを見て】

岡部「えー、ただいまさらわれた乙女からも  
質問がありましたので、  
ざっとこの場所を説明しましょう。  
ここは町外れの廃工場。  
不気味がつて誰も寄りつかないし、雰囲気もあるしで、  
吸血鬼をおびき出すのはうってつけの場所ですよね」

岡部「そしてわたくし岡部が、  
彼女を車のトランクに押し込み、  
ここまで拉致してきたというわけです」

岡部「えー、しかしヒロインをさらってから  
そろそろ1時間ですが、  
中々助けに來ないなあ。  
ピンチ感が足りないのかな？  
どうしよう。乙女の服とか破いてみる？」

SE：近づいてくる足音

【ヒロイン暴れる】

SE：激し目の衣擦れ

【1】

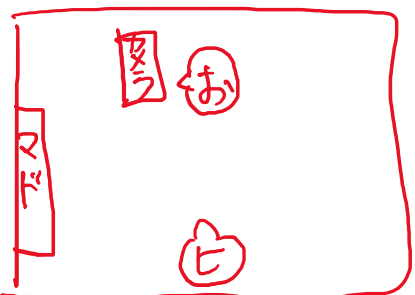
岡部「そんなにあばれないで。  
大丈夫大丈夫、ちゃんとモザイクかけて  
あげますから。  
ほーら、大人しくして。  
派手に、映える破き方を…：ね！」

SE：衣擦れ

SE：服を破る音

岡部「はい、おっばい見えちゃいました〜！  
これはヤバイ！これはピンチ！  
さあ、どうする吸血鬼ミカエル！」

SE：遠くから近づいてくる羽ばたき



SE：窓ガラスパリーン

【1】  
岡部「うわーっ……」

【1】11を見ながら  
岡部「うわ、うわうわうわきたきた本当に来た！」

【9】  
ミカ「愚かな人間よ。  
よくも私の獲物に手を出したな。  
人質をとれば私を狩れるとでも思ったか？  
思いあがるなよ下等生物。  
そのはらわたを引きずり出し、  
腐敗した血の一滴まで地を這うウジ虫の  
エサにしてくれる」

【1】11を見ながら  
岡部「シ、ミ、ミカエルだ…… まじもんのミカエルだああ！  
ひゅーっ、かつこいいい！ 畏怖~~~~~！！  
リスナーの皆さん、見えますか！？  
今！ 僕の目の前に！ 本物のミカエルがいます！」

ミカ「【やや拍子抜け】なんだ貴様……  
誰に話しかけている」

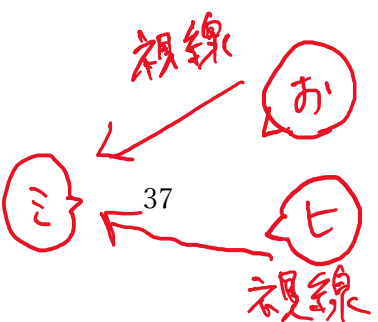
岡部「あっあっ、申し遅れました。僕、岡部って言います。  
吸血鬼の吸血鬼らしいシーンを収集してる、  
いわゆる撮り血（とりけつ）です」

ミカエル「何が撮り血だ！  
撮り鉄みたいに名乗りおって！」

岡部「今の動画もばっちり撮ってて、  
さっきの窓割っての登場とか  
最高に吸血鬼っていうかあ！」

ミカエル「撮らせるかそんなもの」

SE：風切る音



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40

SE:カメラが弾け飛ぶ

【1 10のほうを見ながら】

岡部「どわっしやああ!？」

ウソでしょ僕の八十万円のカメラああ!!!  
鏡に映らない吸血鬼もキレイに撮れる  
超高性能だったのにいいいい!!!」

【9】

ミカ「そう嘆くな。今からお前もカメラと同じ目に  
遭わせてやる」

SE:爪シヤキーン

【1 11を見ながら】

岡部「ひえええすごい! 怖い! 爪が伸びてるカツコイイ!  
わが生涯に一片の悔いなし!」

ミカ「……やめた。爪が汚れる。通報しよう」

岡部「え!? 通報! ちよ、やめてくださいよそんな……」

嫌ですよ高等吸血鬼が国家権力に頼るなんて!  
解釈違いだあ!」

ミカ「黙れ! 私がいいと言うまでそこを動くな。  
これは命令だ」

岡部「うゝうぐ……」

SE:ヒロインに歩み寄りる

SE:ヒロインの前にしゃがみ込む

ミカエル「大丈夫か?

どこか怪我は?」

【ヒロイン、首を左右に振る】

SE:否定の衣擦れ

カメラ

こ

お

ヒ

【1】

1 ミカエル「すまない。妙な視線は感じていたんだが、  
2 私に対するものだと思っていた。  
3 まさか君が狙いとはな……」

4 SE：縄を切る

5  
6  
7  
8 ミカ「さあ、おいで。屋敷に帰ろう。  
9 ほら、首に腕を回して。飛んで帰るぞ。  
10 夜のカフェで食事をするより、  
11 きつと素晴らしいデートの締めくくりになる」

12 SE：ヒロインをお姫様抱っこ

13  
14  
15 ミカ「ん？ 通報？  
16 まあ……そうだな。君の気が向いたところにするといい。  
17 君の気が向かなければ、ここは人気のない廃工場だ。  
18 死んだところで誰にも気づかれはしまいよ」

19 SE：羽ばたき

1 ●トラック⑦食べられてばかりもいられません  
2 無事ミカエルの屋敷に帰宅したふたり。襲われた恐怖に震えるヒ  
3 ロインを、ミカエルが優しく慰める。エロトラックです。

4  
5 場所 ミカエルの屋敷  
6 時間 夜

7 SE:足音

8 SE:リビングの扉開閉

9 SE:ヒロインをソファに座らせる

10  
11  
12  
13 【1】

14 ミカ「さあ。到着だお嬢さん。  
15 何か、温かい飲み物でもいれてこよう」

16  
17 【ヒロイン、ミカにしがみついたまま離れない】

18  
19 ミカ「【優しく】どうした？ ほら。手を放して」

20  
21 【ヒロイン「怖かった」】

22  
23 ミカ「そうだな、怖い思いをしたな。  
24 では、膝においで。  
25 落ち着くまで抱きしめていてやろう」

26  
27 SE:ミカがソファに座る軋み

28 SE:衣擦れ

29  
30 【3】

31 ミカ「よしよし、こんなに震えて、可哀想に……。  
32 君を守れなかったことを恥じるばかりだ。  
33 言い訳になるが……  
34 もう長いこと、喧嘩を避けて生きてきた。  
35 君が消えたことにもすぐに気づけず、  
36 連れ去られた君を見つけるのにも時間がかかった。  
37 すまない。本当に」

38  
39 【ヒロイン「悪いのは岡部」】

40





1 【1】

2 ミカ「ああ、もちろんだ。

3 もちろん悪いのはあの下種だが……

4 私が吸血鬼である以上、ああいう輩は後を絶たない。

5 今回ののは、まだマシなほうだ。

6 過去には私の苦しむ姿を見たいからと、

7 私の友人を殺した者もいた」

8  
9  
10 ミカ「君の気配がカフェから消えた時、

11 温度を失っている私の血がさらに凍りついた。

12 もし君が殺されていたら、私は……」

13  
14 ミカ「なあ……キスをしてもいいか？

15 君のぬくもりに触れて、

16 君が生きていることを感じたい」

17  
18  
19 【ついでにむようなキスからディープキスへ。三十秒ほどお願い致  
20 します】

21  
22 ミカ「ん、甘い匂いがしてきた。キスだけで濡れたのか？

23 恥ずかしがることはない。ほら、触ってみろ。

24 私ももう、こんなに昂ぶっている」

25  
26 【ヒロインの手を股間に導く】

27  
28 SE：衣擦れ

29  
30 【ヒロイン「舐めたい」】

31  
32 ミカ「【きよとんとして】何？ 舐め……？

33 舐めるってまさか君……コレをか？」

34  
35 ミカ「その、奉仕の心がけは素晴らしいが、  
36 しかし……」

37  
38 【ヒロイン、どうしてもしたいと言う】

39  
40

【1】

ミカ「わ、わかったわかった！

そこまで言うならやってもいいが……

ふふ、君に初めて触れた日の仕返しというわけか？

ほら、床にひざまずいて」

SE：体位変える衣擦れ

SE：ソファ軋む

SE：ベルト軋み

SE：ファスナー下ろす

【1 上から】

ミカ「そのまま舌で舐めて、口の中にくわえ込んで……。

歯を立てないように……。そう、上手だ……！」

SE：フェラ水音

ミカ「うあ……っ。はあ、驚くほど気持ちいいな。

ぬるぬるとして、温かくて……まるで君の中に

いる時のようだ」

【喘ぎ声二十秒ほどお願い致します】

ミカ「つああ、おい、こらそんなに奥まで……！」

奥に、あたって……！！

くっ、うう……！！

う、あ……っ。そろそろ限界だ。

口を離して………んんっ!？」

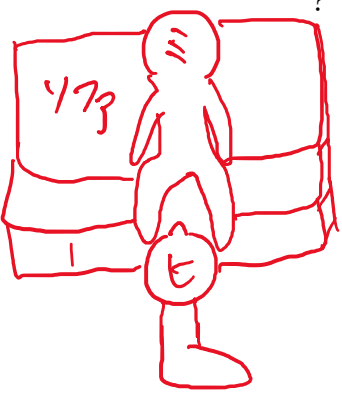
SE：フェラ水音激しく

ミカ「【余裕失い】

こら、やめないか！ 本当にもう、

んあっ、あっ、くうう……出る……っ」

SE：射精



【1】

1  
2  
3 ミカ「【息整え】はあ、はあ……。」  
4 人間にしゃぶられ、耐えきれずに果てるとは  
5 なんという屈辱……  
6 おい、何をもごもごしている。  
7 まさか味わってるのか？ 早く吐き出しなさい！  
8 ほら、へって」

【ヒロイン、飲む】

10  
11  
12  
13  
14 ミカ「吐けと言ったのに飲むやつがあるか！  
15 まったく君という女は、  
16 私の言うことを全く……！」  
17

18 ミカ「【ふっと笑って】まあいい。君は初めから、  
19 そういう人間だったな。  
20 無礼で、不躰で無作法で。そうして、  
21 閉ざされていた私の世界を強引にこじ開けにきた」  
22

【ヒロイン、きよとんとする】

23  
24  
25 ミカ「察しが悪いな君は！ つまりだな、その……。  
26 愛おしい、と言っているんだ」  
27

28 ミカ「【照れて】話はここまで！ 今度は私が責め手に回る」  
29

30 ミカ「さあ、ソファに寝転がって。足を開くんた」  
31

32 SE：体位変える衣擦れ

33 SE：ソファ軋む

34  
35  
36 ミカ「……これは、随分と濡らしたな。  
37 尻のほうまで垂れているじゃないか。  
38 私のを舐めながら、  
39 貫かれる瞬間を想像していたのか？」  
40

1 【1】  
2 ミカ「早速お望みのものをくれてやろう。ほら、力を抜いて。  
3 奥までいくぞ……っ【台詞終わりで挿入】」  
4

5 SE:挿入

6 ミカ「ああ、すんなり入ったな。まだ二度目だというのに、  
7 呑み込みの早いことだ」  
8  
9

10 【吐息のみ三十秒ほどお願い致します】  
11

12 SE:ゆっくりめのピストン

13 SE:ソファ軋む

14  
15 ミカ「ははっ、耳まで赤くなっている。  
16 小さくて、慎ましくて。……思わず  
17 食べたくなるほどに可愛いな。  
18 ……はむっ【耳を口に含む】」  
19

20 【7 三十秒ほど右耳舐める】  
21

22 ミカ「【7 舐めながら】

23 くっく、やはり君は耳が弱い。  
24 舐めるたびに中がビクビク震えているな。  
25 次はこちらの耳も可愛がつてやろう。こうして、耳たぶを  
26 啜えて……軟骨を甘噛みして……」  
27

28 【3 三十秒ほど左耳舐める】  
29

30 SE:ソファ大きく軋む

31  
32 ミカ「軽く達したようだな。だが、まだ足りないんだろう？  
33 腰がいやらしく揺れている」  
34

35 【ヒロイン、もっと欲しいとおねだり】  
36

37 ミカ「仰せのままに、私のレディ。  
38 君が望む分だけ奥を穿って、中に出してやろう。  
39 ゆっくりがいいか？ それとも激しくしてほしい？」  
40

1 【ヒロイン「激しくしてほしい」】

2

3 【1】

4 ミカ「はは、強欲だな。

5 だったら、ほら、足を私の腰に回すんだ。

6 君の一番いいところを激しく突いてやる……っ」

7

8 【フィニッシュに向かう激し目の吐息一分ほどお願い致します】

9

10 SE:ピストン速度速め

11

12 ミカ「ふう……ふう……っ、く、出る、出すぞ……っ！

13 【フィニッシュ】」

14

15 SE:射精音

16

17 【呼吸整える。秒数お任せします】

18

19 ミカ「私としたことが、こんなに早く達してしまうとは。

20 【照】君を前にすると、いつも我慢が効かなく  
21 なってしまっな。

22 ほら、わかるか？ 出したばかりだというのに、  
23 もうこんなに硬くなっている」

24

25 SE:数回出し入れする水音

26

27 ミカ「悪いが、もう少しだけ付き合ってくれ。

28 もっと君の中にいたいんだ。

29 先ほどよりも、もつとずつと奥の、子宮の入り口を  
30 私のものこねまわしてやる……っ」

31

32 【激し目の呼吸三十秒ほどお願い致します】

33

34 ミカ「はあ、はあ、はあ……っ。

35 好きだ、愛している……っ！ 君も、私を好きか？  
36 だったら、私の名前を呼んでくれ。君のその、  
37 可愛らしい声で……っ！」

38

39 【ヒロイン、従う】

40

1 【1】

2 ミカ「くっ、ああ、たまらないな……！」

3 自分の名前が、これほど特別なものに感じられたことは  
4 ない。もつとだ、もつと呼んでくれ……！」

5 私の耳元で、何度でも囁いて……。愛してると  
6 言ってくれ……！」

7 はあ、ああ、また出る……っ。

8 出さず、中で飲み干すんだ……っ」

9  
10 【フィニッシュに向かう激し目の呼吸、秒数お任せ致します】

11  
12 SE：射精音

13 SE：ソファ大きく軋む

14  
15 SE：抜く

16  
17 【ミカ、無言のまま息を整えながら、ヒロインの首筋にキス。秒  
18 数お任せします】

19  
20 SE：ソファ軋む

21  
22 ミカ「ん？ 眠くなったのか？」

23 大丈夫、そのまま目を閉じていい。

24 お休み、私のレディ」

25  
26 ミカ「ああ……この長い生に飽き飽きしていたが、

27 君が側にくれるなら、きつと退屈しないだろう。

28 愛している。

29 これからもずっと、私の側に居続けてくれ」

30  
31 【首筋にキス】

32 Fin.

33  
34